

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

## 2 地理歴史

<目次>

I	「指導と評価の年間計画・評価規準の作成の手引き」	P 1～2
II	「指導と評価の年間計画」(地理A) <例>	P 3
III	「評価規準と単元計画」(地理A) <例>	P 4
IV	「学習指導案」(地理A) <例>	P 5～6

## I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

### 1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、「学習項目」、「授業時間数」、各授業ごとの「主な学習活動（指導内容）と評価のポイント」、「評価方法」を記述する。

### 2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

◎「単元名」、「単元の目標」、「単元の評価規準」、「指導と評価の計画（○時間）」を示す。なお、「単元」とは、ほとんどの教科書の「節」に該当するものである。

#### ・「単元の目標」

実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。

#### ・「単元の評価規準」

単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

◎「指導と評価の計画（○時間）」を示す。そこには、「次程」、「学習活動」、「評価の観点」、「評価規準等」を示す。

#### ・「学習活動」、「評価の観点」

上記の1の「指導と評価の年間計画」の「各授業ごとの主な学習活動（指導内容）と評価のポイント」に反映されていなければならない。

#### ・「評価の観点」

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」及び「知識・理解」に評価の観点を整理し、各教科等の特性に応じて、適切に設定しなければならない。

#### ・「評価規準等」

評価規準は、「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。

#### ・「評価方法」

評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

※平成24年3月に、国立教育政策研究所教育課程研究センターから、「評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 地理歴史）」が示され、次のURLからダウンロードすることができる。

[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/02\\_kou\\_tirerekishi.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/02_kou_tirerekishi.pdf)

「評価規準と単元計画」 <例>

(1) 単元名：○○○○

(2) 単元の目標

- ア ○○○○○○○○
- イ ○○○○○○○○
- ウ ○○○○○○○○
- エ ○○○○○○○○

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～に対する関心と課題意識を高めている。」 「～について意欲的に追究している。」等	・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。」等	・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～から有用な情報を適切に選択している。」 「～を図表などにまとめたりしている。」等	・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～を理解し、その知識を身に付けている。」等

(4) 指導と評価の計画 (○時間)

曜日	学習活動	関	思	技	知	評価規準等
第一次 (○時間扱い)	【ねらい】 ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～をつかませる。」 「～を捉えさせる。」 「～について理解させる。」 「～を展望させる。」 「～を高めさせる。」 「～について説明させる。」 「～を見いださせる」 「～について考察させる。」 「～を表現させる。」等					
	・ 学習活動の主な項目を記載する。	・ 該当する評価の観点に、●を記載する。				・ 評価の規準及び具体的な評価の方法を記載する。
第二次 (○時間扱い)	【ねらい】 ○○○○○○○○					



II 「指導と評価の年間計画」(地理A) <例>

1 目標

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 到達目標に向けての具体的取組

- ・現代世界の地理的な諸課題に対する関心を深め、課題意識をもつことができるように、身近な事例からテーマを設定する。
- ・世界の諸地域の生活・文化の特色を多面的多角的に考察できるよう、授業ごとに内容を工夫する。
- ・生徒が興味・関心をもって主体的に学習に取り組めるよう、日常生活と関連付けたり、地理的機能が身に付くように、地図や統計などの地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的、体験的な学習を取り入れる。
- ・定期考査では、知識・理解に偏らず、思考・判断・表現も評価できるように問題作成に工夫を凝らす。

3 年間指導計画

月	編	学 習 項 目	時 間	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4		第1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 1 観光による結び付き 2 地域間の結び付き	6	・都市観光やエコツーリズム、農村観光など、観光を題材にして、地理学習への興味・関心を高めるとともに、国際的な人々の移動についての学習を通して、観光という視点から地域や国家間のつながりを理解している。 ・諸資料を用いながら交通やインターネット、貿易の構造について学び、地域間の結び付きやその変化、現代の特徴を理解している。 ・鉄道路線敷設について考察、航空写真の読み取りを通じて地理的機能を身に付けている。 ・地域や国家間の結び付きについて興味・関心をもって授業に参加している。 ・学習内容に関する諸事象を、主題図や写真、グラフから捉えている。	定期考査 ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
5		3 国と国の結び付き 4 地球儀と地図  まとめと復習 「岩倉使節団の行程をたどる」  1学期中間考査	7	・国家の3要素と国境、日本と外国との関係、国家間の結び付きと国際組織、日本と周辺諸国との間の領有権問題について学び、国境の意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを考察している。 ・球体としての地球、季節と時差、地球儀と主な図法による世界地図、現代の地図とGISを学習する。異なる図法の世界地図の比較学習を通じて様々な世界地図を場面に応じて適切に扱う技能を身に付けている。 ・国家の領域に関する知識を身に付け、日本の領土問題を理解し、考察している。 ・世界地図を図法の違いで適切に使い分けている。	
6		第2章 世界の生活・文化の多様性 1 人々を取りまく地形 2 人々を取りまく気候  1学期末考査	8	・世界の大地形の形成と地下資源との関係について世界的な視野から学習している。 ・地形環境が人々の生活に及ぼす影響を理解している。 ・大気の大循環と気候の地域性、世界の気候区分、各気候帯と気候地域の自然環境の特色とそこで営まれる生産活動を世界的な視野から学習している。 ・学習を通じて気候環境が人々の生活に及ぼす影響を理解している。 ・世界の地形・気候について興味関心をもって授業に参加している。 ・自分が生活している地域の地形や気候の特徴について考えている。 ・地形や気候についての知識を身に付け、主要要素の分布の特徴を世界的な視野で捉えている。	
7	第1編 現代世界の特色	3 人々を取りまく経済と文化	5	・世界の農業や工業の発達と特色、経済活動のグローバル化、民族及び言語や宗教についての学習を通じて、経済と文化における地理的環境や歴史的背景の影響について理解している。 ・生活と宗教の関わりについて考察している。 ・異文化尊重の態度が重要であることを理解している。 ・白地図を用いた作業学習に意欲的に取り組み、課題を完成させようとしている。	定期考査 ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
9		4 世界各地の生活・文化 (1) 東・南・東南アジアの生活・文化  2学期中間考査	7	・自然環境や宗教と言語、社会と産業の特色の学習を通じて、文化の多様性、環境と生活や産業の関わり、経済発展の要因を理解している。 ・日本との文化的・経済的関わりを考察している。 ・この地域の経済発展の要因が理解できたか。また、自分の生活との関連から捉えている。	
10		(2) 西・中央アジアの生活・文化  (3) アフリカの生活・文化  (4) ヨーロッパの生活・文化	9	・イスラム教、乾燥気候、石油資源の開発、民族と文化についての学習を通じて、宗教や自然環境、資源開発と人々の暮らしとの関連を理解している。 ・パレスチナ紛争の学習を通じて国際問題を考察している。 ・パレスチナ問題を国際社会の問題ととらえ、解決に向けての取組を考えている。 ・自然環境、植民地支配の歴史、産業の特色についての学習を通じて、この地域の経済や民族紛争に歴史的背景があることを理解している。 ・経済発展を始めたアフリカと日本のこれからの関係について考察している。 ・アフリカと日本との関係の将来的な方向性を考察している。	定期考査 ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
11		(5) アングロ・ラテンアメリカの生活・文化  (6) オセアニアの生活・文化  まとめと復習「世界各地の生活・文化」 2学期末考査	8	・自然環境、生活と文化、言語と宗教、EJと経済の特色についての学習を通じて、この地域が文化的統一性をもちながらも各地の環境に根ざした多様な生活・文化を有することを理解している。 ・EJ統合による各地域の変化を捉えて、問題点を考察している。 ・南北アメリカの歴史、自然環境、生活・文化、産業の学習を通じて、自然環境や資源、植民地としての歴史などが多様な文化や産業に結びついて地域的特色が生まれてきたことを理解している。 ・日本の生活・文化との共通点や異質点を見出している。 ・ニュージーランドとオーストラリアの生活・文化の学習を通じて、自然環境と生活との関連を理解している。 ・太平洋という「同じ海」に面した国である日本との違いを考察している。 ・意欲的にまとめと復習に取り組んでいる。	
12	第1編 現代世界の特色	第3章 地球的課題の地理的考察 1 環境問題 2 資源・エネルギー問題 2 人口・食糧問題  4 居住・都市問題  まとめと復習 「相互に関連する地球的課題」	6	・酸性雨、オゾン層の破壊、地球温暖化、熱帯林の減少、砂漠化について学び、これらは人類が地球的視野で取り組むべき課題であることを理解している。 ・資源やエネルギーの利用について学び、資源の偏在や有限性、消費の地域格差を理解し、持続可能な発展と国際協力の必要性、日本の役割について考察している。 ・人口問題や食糧問題の学習により、途上国と先進国では問題が異なることを理解している。 ・諸課題について解決策や課題を自分なりに考えている。 ・写真などの資料から諸課題の現状を読み取っている。 ・個々の事例について知識を得て、原因を理解している。	ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
1		第1章 地図は生活必需品 1 身のまわりの地図	6	・身の回りの地図を用いた情報収集の方法を学習し、有用性を理解している。 ・地理情報を分析する地理情報システムについて学習し、地理的機能を身に付けている。 ・身の回りの地図に関心を持ち、積極的に知識と活用方法を学ぼうとしている。 ・新しい地図の利用方法を身に付け、その有効性を理解している。	定期考査 ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
2	第2編 生活圏の課題	2 地形図の読み方  まとめと復習「地図で読む『二十四の瞳』」  第2章 自然環境と防災 1 日本の自然環境の特色 2 自然災害の事例  3 日本の自然災害への取り組み	6	・地形図の読図に必要な基礎知識を身に付けている。 ・河川、扇状地などの地形図を用いて読図の技能を身に付けている。 ・地形図の読図に必要な基礎知識を身に付けて、地形図の機能や活用方法について理解している。 ・日本の地形や気候などの成り立ちと特徴、土地利用の特徴についての学習を通じて、日本の自然環境や、人間生活と自然災害との関わりについて理解している。 ・東日本大震災などの事例学習を通じて、日本で発生する自然災害について学習し、災害の特徴や地域性、防災への取り組み方や課題を理解している。 ・地形図やハザードマップなどの主題図の読図など、日常生活に結び付いた地理的機能を身に付け、防災意識を高めている。 ・自然災害に備えて自分が普段から心掛けておくことや災害時の行動について考えている。 ・生徒の生活圏においても自然災害の危険があることを具体的に認識し、それへの対応を考え防災意識を高めている。	
3		第3章 生活圏の諸課題と地域調査 1 生活圏の諸課題 2 東京都青梅市の地域調査  学年末考査	2	・生活圏の地理的な諸課題を地域調査やその結果の地図化などによって捉え、その解決に向けた取組などについて探究する活動を通して、日常生活と結び付いた地理的機能及び地理的な見方や考え方を身に付けている。 ・地域調査について、事前調査、整理・分析Ⅰ(仮説の設定)、現地調査、整理分析Ⅱ(仮説の検証)、発表の手順や方法について学んでいる。 ・地域調査の立案に意欲的に取り組み、学んだ知識を生かしている。 ・身の回りの課題を地図化して、分布図などを作成する技能を身に付けている。 ・分析やまとめ、発表の方法が理解している。	
				70	

Ⅲ 「評価規準と単元計画」（地理A）〈例〉

1 単元名：「地図は生活必需品」

2 単元の目標：

地図や諸資料を使って、情報伝達方法や活用方法を学習し、その有用性を理解させる。地理情報システムなどを活用する技能を養う。  
地形図の読図に必要な基礎的な知識を学習し、生徒に身近な地域の地形を読み取る技能を養う。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
地図の活用と地域調査に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	地図の活用と地域調査について、生活圏の地域的特色や地図を活用した地域調査の方法などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	地図の活用と地域調査に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	地図の活用と地域調査について、生活圏の地域的特色や地図を活用した地域調査の方法などを理解し、その知識を身に付けている。

4 取り上げる言語活動と教材

- (1)言語活動 各個人の要望を入れた旅行計画を班で話し合っ決定し、発表する。  
(2)教材 基本地図帳、JR時刻表、旅行計画書

5 指導と評価の計画(4時間)

次 程	学 習 活 動	評 価 の 観 点				評 価 規 準 等
		関	思	技	知	
第1次・1時間扱い	【ねらい】地図帳や時刻表の鉄道路線図などから有用な情報を選択して、ワークシートにまとめさせる。  ○時刻表を使って、高山市へ行く列車を調べる。			●		地図帳や時刻表の鉄道路線図などで高山市の位置や路線を確認し、列車の時刻を調べて、ワークシートにまとめている。(技)
第2次・1時間扱い	【ねらい】地図帳や時刻表の鉄道路線図などから有用な情報を選択し、他の生徒の意見を取り入れながらワークシートにまとめさせる。  ○地図帳と時刻表を使用し、東北地方への旅行計画を班で立てる。 ○地理情報システム(GIS)を利用して、被災地の模擬巡検をする。			●		地図帳で目的地を確認し、時刻表の鉄道路線図を利用して現地まで到着する計画を立てるなど、諸資料から有用な情報を選択して、読み取ったりワークシートにまとめたりしている。(技)
第3次・1時間扱い	【ねらい】地理情報と地図について、地図の有用性などを理解し、その知識を身に付けさせる。  ○地図記号を学ぶ。 ○地形図を読む。	●				地理情報と地図に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。(関)  ● 地理情報と地図について、地図の有用性などを理解し、その知識を身に付けている。(知)
第4次・1時間扱い	【ねらい】2万5000分の1地形図など、地理情報と地図について、地図の有用性を考察し、ワークシートにまとめさせる。  ○羽島市と、その周辺の地形図や、地理情報システム(GIS)を利用して、地図と実際の地形を見比べることで、地図の有用性を考察させ、その結果をワークシートにまとめる。		●			地理情報と地図について、地図の有用性を考察し、その過程や結果を適切に表現している。(思)

IV 「学習指導案」 (地理A) <例>

単元名	地図は生活必需品		
本時の主題	模擬巡検「東北の被災地へ訪問しよう～時刻表を使って旅行計画をつくる」		
本時の目標	<p>○地図帳で目的地を確認し、時刻表の鉄道路線図を利用して現地まで到着する計画を立てるなど、諸資料から有用な情報を選択して、読み取ったりワークシートにまとめたりしている。【資料活用の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳と時刻表を使用し、東北地方への旅行計画を班で立てさせる。</li> <li>・地理情報システム(GIS)を利用して、被災地の模擬巡検をする。</li> <li>・グループで話し合い、地図帳と時刻表を使って目的地への経路を調べさせる。</li> <li>・これまでに学習した地形の学習を、実際に見た地図や映像の中で応用する。</li> <li>・東日本大震災の被災地の様子を見て、災害に遭遇したときはどのような判断をすべきか、考えさせる。</li> </ul>		
	指導の内容	学習内容	指導上の留意点・観点別評価
導入 10分	本時の目標と活動内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜から被災地「気仙沼」までの旅を計画することを説明する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>a 出発は岐阜羽島駅 出発時間は自由。</li> <li>b 二日目に「気仙沼訪問」となるように、途中で宿泊地を選ぶ。</li> <li>c 計画の中に観光地の見学を入れてもよい。</li> </ul> </li> <li>・時刻表・地図帳・ワークシートを準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が活動しやすいように、あらかじめ人間関係を考慮して班を決めておく。</li> <li>・世界遺産に指定された平泉などを紹介する。</li> </ul>
展開 35分	旅行計画をたてる。  気仙沼市を疑似訪問する。	<p>Q 目的地はどこにあり、どのようにしていくのだろうか？</p> <p>①「気仙沼」はどこにあるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 東北地方の何県にある市か？</li> <li>b 岐阜羽島駅からどのように鉄道を乗り継いでいくか？</li> </ul> <p>②時刻表を使って、気仙沼までの経路を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a グループで出発時間、到着時間、観光を入れるかどうか、宿泊地、ホテルの検討をする。</li> <li>b ワークシートにまとめる。</li> </ul> <p>Q 目的地はどのようなところだろうか？</p> <p>③地理情報システム(GIS)の画像をスクリーンに投影し、津波被害の様子を見る。詳しい市街図を配布し、郵便局など地図記号と実物を確認しながら見ていく。</p>	<p>○地図帳で目的地を確認し、時刻表の鉄道路線図を利用して現地まで到着する計画を立てるなど、諸資料から有用な情報を選択して、読み取ったりワークシートにまとめたりしている。(技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳や時刻表の中の路線図を使うことができる。</li> <li>・時刻表をグループ内でまわすなど、1人だけが調べて、他の人が書き写すだけにならないよう配慮する。</li> <li>・班の中で互いにコミュニケーションをとり、旅行計画が立てられるように配慮する。</li> <li>・これまでに学習した地図記号に関する知識を確認する。</li> </ul>

		<p>a 気仙沼駅（標高30m）を出発し、海岸方面に向かっている。</p> <p><b>Q津波の被害はどこが大きいのだろう？</b></p> <p>b どれくらいの標高から津波の被害が出ているか。</p> <p>c 被害の大きい鹿折地区を見る。</p> <p>d 地震で津波が発生した場合にはどのような行動をとるべきか、意見を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平坦に見えるが、標高差がかなりある地形であることを理解できるよう配慮する。</li> <li>・災害時はどのような行動をとるべきかグループで話し合わせる。</li> </ul>
まとめ 5分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の感想をワークシートに記入させる。</li> <li>・次回の予告をする。</li> </ul>	

※ ○は記録に残す評価。